

シリーズ『県商功労者』つづき

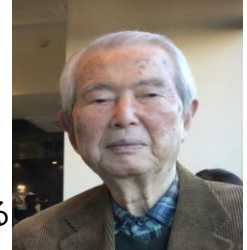
近年の母校並びに同窓会の功労者を紹介します。

なおこの後、既に発行している『県商人物史』に追加掲載させていただきます。

宝官 進一郎先輩 67回生(昭和22年卒業)

第12代理事長として同窓会の再興と近代化に尽力

昭和4年(1929)生まれ、太平洋戦争の始まった翌年、昭和17年に神戸西須磨国民学校(現小学校)を卒業し、その年の春県商に入学。日本は軍国主義一色となり、当時の中学卒業生は軍人、公務員をめざしたが、経済界・企業を望み、歴史と伝統ある県商を選んだ。しかし当時は戦力強化のため、工業重視、商業軽視の強い風潮があり、全国ほとんどの商業学校が工業学校に強制転換され、兵庫県では県商と姫商のみが残った。



憧れだった夏はまっ白い服、冬は真っ黒の学生服、かばんは黒い風呂敷から、戦時下に於いては国防服(緑色)の軍服姿に学生帽は戦闘帽になり足元はゲートルを巻いた姿が当時の制服であった。

近在には殆ど民家はなく、隣接の神戸高商(後の神戸商科大学、現県立大学)と白亜の校舎が並び、大阪湾を望み、須磨の鉢伏山の山頂からも両校舎が遠望でき、その雄姿に県商生は誇りを抱いていた。

間もなく戦況の悪化で国家総動員法による学徒動員令により3年生で授業打ち切り、川崎航空機に派遣され戦闘機の生産に従事。20年1月と6月米機の爆撃により生死をさまよった。

白亜の校舎は黒塗りになり海軍の経理学校に接收される。本土は焦土と化し敗戦を迎えた。

戦後の混乱期22年4月、旧制大阪商科大学高商部から大学に進学、昭和28年不況下に鐘淵化学工業(株)に入社。戦後の日本経済復興に尽力、定年退職。平成7年の阪神大震災では地域の復興発展に尽力。渦中に「日輪昇る」(県商生の戦争体験記・全500ページ余)を発刊。

同窓会活動では評議員・理事として、また平成17年理事長代行、同18年から2年間理事長就任、その間会運営の不適正の是正と組織の改革強化、財務会計制度を従来の大福帳方式から機械会計ソフトに全面移行を図り今日に備えた。また情報の発信として公式ホームページを創設、会報の充実を図った。事業の運営については堅実を旨としガバナンスの強化も図り将来に備えた。

理事長時代に母校創立130周年を迎え、伝統ある母校の資料保存のため母校玄関横に「歴史資料室」を開設した。

《後輩達への伝言》

現在は目まぐるしく変化・発展する時代。母校第8代校で甲南学園を創設、後に文部大臣もされた平生 鈇三郎先生が「常に備えよ」といわれている。歴代先輩が残された尊い基本財産を守り、後輩に伝え、同窓会の発展を図るのは理事長をはじめ、役員的重要な使命です。

《同窓会に於ける役員履歴》

- ・平成16年 副理事長就任
- ・平成18年 理事長就任
- ・平成20年 顧問就任
- ・令和2年 相談役就任



戦没慰霊碑に供花(明石公園)